第１回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時：

令和６年５月２７日（月）１３時３０分～１６時００分

■場所：

草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）　４０１会議室

■出席委員：

乾委員、土山委員、森田委員、四方委員、中谷委員、出呂町委員、齋藤委員、布施委員、喜田委員

■欠席委員：

佐藤委員

■事務局：

【行政】

河合部長、小寺副部長、西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、山元係長、石原主任

■中間支援組織

【（公財）草津市コミュニティ事業団】

福留事務局長、茶木課長、栗田氏、中村氏

【（社福）草津市社会福祉協議会】

秋吉課長、青木副参事

■傍聴者：

無し

１．開会

事務局　定刻となりましたので、ただいまから、令和６年度第１回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。本日は、公私共に御多用の中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

本日は９名の委員に御出席いただいており、１名の委員が欠席となっています。

さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第９条の規定に基づき、傍聴が可能となっておりますが、本日は傍聴の方はおられません。また、当委員会は、会議録について後日公表させていただきます。記録のため、委員会の様子を写真に撮らせていただきます事、御了承ください。

最後に、資料の確認をさせていただきます。

＜担当者から資料の確認＞

それでは、議事進行について、乾委員長よろしくお願いします。

委員長　皆様こんにちは。令和６年度第１回の委員会です。第１回と言いながら、２年任

期の委員さんの最後の委員会となりますので、大事な場と思っております。今回の委員会は第３期計画に走り出すための第２期計画の整理と考えています。
特に令和５年度は委員会の回数は少なかったものの、かなりいろんな話ができたと思っています。
いろんな話がありましたが、一番大事な確認事項として、この場は単に市からの報告を受けて評価するだけの場ではなく、市の市民協働についてきちんと考えていく場であると、市にも確認しております。
これまですごく大事な話がたくさん語られたと思いますが、中でも今回の委員会の位置づけがきちんと確認できたことと、皆様の中で協働とは何か、参加とは何かということを、地域は地域で頑張っていて、市民は市民で頑張っていて、実は現場ではその境界がなくなりながら動いているという現実の話も出し合いながら確認しました。
それが市民にはきちんと見えていない、伝わっていないということ、委員のメンバーだって実はわかっていないあるいは解釈はまちまちだという話が確認できました。
恐らく最後のまとめの話が一番大事な話だと思います。次期はそれを踏まえどう展開していくか。
そういう意味ではこの委員会が議論してきた話が非常に大事であり、次期委員会に繋ぐ内容が資料 1 にまとまっております。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局　資料１について説明

委員長　簡単にはまとめられておりますが、令和４年度５年度にはこういう議論をしたのかという確認が最初に来ております。そして今日はこんな話をしていきますという話が続きます。まず確認としてこんな話もあるのではないかという意見があれば、次の委員会にも繋がると思われるので、是非お聞かせください。

副委員長　文章の意味について確認させてください。令和４−５年度の成果の「・」の２つ目についてですが、「各主体の連携や市民との協働に対する苦手意識より～」という表現がわかりづらく思います。まず、「～より」という表現が、比較なのか理由なのかによって読み方が変わってくると思います。また、主語が「各主体」なのか「行政」なのかを明示すべきであるとともに、必要であれば文章を分けて記入いただいても良いと思います。
続いて「・」の３つ目ですが、『見える』『繋がる』という部分で課題が見受けられるという表現があり、その通りではありますが、その背景の１つにコロナ

禍があると思います。コロナウイルスの感染予防対策のソーシャルディスタンスの体制に変わった後にこれまでと同じような体制で再構築していくということは現実的ではないと思います。
ソーシャルディスタンスの間、コロナ前に決まっていたいろんなものを新しい形で再構築していかなくてはならないというのが課題なので、そこの部分で『見える』『繋がる』という部分に課題があると思われます。
やっぱりコロナのインパクトというのは資料に入っていた方がこの令和５年度の総括には相応しいのではないかと思いました。

Ｂ委員　令和４−５年度の成果の「・」の１つ目の「市民目線で、市や中間支援組織、まちづくり協議会の各主体がそれぞれどのような取組をしているのかわからない。」というのは、市民目線でどのような取組をしているのかわからないのか、市民が見たところどのような取組をしているのかわからないのかどちらか。

事務局　あくまでもここは市民から見たときに、各主体がそれぞれどのような取り組みをしているのかがわからないという趣旨でございました。
土山副委員長がおっしゃった「・」の２点目ですけども、「苦手意識より」の「より」は「によって」のつもりで確かに書いていたんですけども、御指摘の通り、各主体からの視点と行政からの視点というのは確かにあったので、そこは整理してまた書かせていただこうと思っています。
御意見ありがとうございました。

委員長　確かに行政の中で苦手意識がある話は以前もでていましたが、より突っ込んだ話が出たと思います。
行政さんの方からもそんな話があって、当然市職員１人１人がそういう協働とか、参加に対する話に対して、あまり近付きたくないという話もありましたし、コミュニティなどのような協働の窓口とそうでないところが全然うまく連携できないという話もあったはずですし、苦手意識という一言では多分次に繋がらないところがあるような気がします。
あとは市民側の苦手意識もあるでしょう。市民活動は「地域は何をしているのか」という意味で何となく近付きがたいというそういう話もあるので、書くならば確実に２項目にしておかなければならない。
行政、市職員の問題と市民相互間の話というのは元々発生の仕方も、対応の仕方も全然違うはずであるから、２項目になるという気がします。
その上で、先ほど資料８もちらっと見ましたが、もっと機械的な話しか書いていないので、余計気になっているのですが、この委員会で語った話をきちんと次へ

継承しようとするなら、もう少しこの部分は丁寧に書いてほしいと思います。要するに、何が問題かという話と、だから何をすべきなのか、あるいは次のステップとしてどう展開するべきなのか、100%ではないけどそういう議論はあったはずなのです。
そのときに市民活動でも地域でも良い事例も語られたと思います。そういう意味でもう少し丁寧に拾ってほしいと思います。
どういう問題があったかをちゃんと整理整頓して表現方法も考えて、それはどういう展望があるのかであったり、どこをつつかなければならないかであったりという話もあったと思いますので、１００％でなくとも、そこまで整理して文章を作ってほしいと思います。
次の委員が読んでなるほどと思うにはせめてＡ４サイズ２枚ぐらいにはなる気がします。
他の方はいかがでしょうか。

Ｂ委員　行政が市民との協働に対する苦手意識とはどういうことかということの理由を記載する必要があると思いました。また、行政の縦割り等が起因しているという意見も出ていたと思いますので、そのあたりも丁寧に拾うべきと感じました。

Ｃ委員　令和５年度について私は１回しか出席させていただいておりませんが、いろんな御意見が出てきたと思いますので、より具体的に書いていただければと思います。

Ａ委員　会議に出ている人にはわかる資料ですが、会議に出ていない人にはわからない資料になっていると思います。このような書き方では議論のイメージがしづらいのかなと感じました。

Ｇ委員　令和４−５年度の成果の「・」の１つ目の「市民目線」という言葉が、まちづくりに興味のある市民のことなのか、例えばこのまちに住んでいる我々のような学生のことも指すのか、いろんな捉え方があるので、もう少し具体的に書いた方が良いと思いました。

Ｆ委員　いろいろ行政の方とお話をしたり、市民の方とお話したりしますが、苦手意識というよりも、とっかかりであったり、ニーズの吸収やマッチングの手続きの問題であったり、幅広いものが入ってなければならないのではないかと思いました。
一方で成果として、令和４年度、令和５年度の中で様々な取組がなされたことは間違いないと思います。前々回もワークショップをされていて、非常に画期的なことだったと思いますので、もっとアピールされてはどうかと思いました。

副委員長　今お話があったワークショップのように、この回でこういうことをやったというような書き方にすれば、わかりやすいと思いました。

委員長　全て次に続く話だと思っています。ここで完結させて終わるんだったらどんなまとめ方でも構いませんが、そうではありません。次回の委員会に何を伝えるかという話としてまとめてほしいです。そういう意味で言えば、議事録があって、議事録を全部読むと言ったら次の人はしんどいから、各回の議事録みたいなものを整理整頓して、具体の話が入るという話があって、それをトータルで見るとこういうことがあったみたいですということを冒頭に置くのであればよいですが、冒頭にだけそれをつけることによって実際とても大事な具体的な話が伝わらなくなっては逆に本末転倒だと思う。

各回の議事録もひっくるめて次に伝えてほしいです。そういう整理の仕方をお願いできますか。

私は少なくとも次回も出席します。今日のことは記憶しておくので、そういう資料が出てそれによって次に繋がると思っております。

「苦手意識」というのも行政の縦割りの話が出たと思います。また、草津の特徴として良い点としてコミュニティ事業団と社会福祉協議会という中間支援組織があること。

しかしながらさきほどの連携の話があって、キラリエができたというプラス面も語られたし、それでもまだ克服できてない部分もありますし、そういう話をきちんと整理してください。

要するに具体の話として次に繋がなければなりません。

抽象的な言葉だけ次に繋いでも何も伝わりません。そこが一番大事な部分だと思います。

当然不十分だから、不十分でいいんですよこの委員会は。ここまでしか議論できていませんという話でもありますが、そこまで議論できたという話はちゃんと伝えないとここにいる人たちの価値がないじゃないですか。

事務局　市としてこの委員会に４年間ずっと携わっているのは私だけとなりました。各委員さんのおっしゃる通り、この２年間でいろんな議論がなされてきたと思います。特に昨年度３回委員会をさせていただいて、ワークショップというのは画期的な取組だったと思っておりますし、行政職員の苦手意識というのは、職員の協働に対する意識調査の中ででてきた言葉であったと思っております。

おっしゃる通り十分にまとまりきっていないまとめの資料であると感じております。今日皆さんからいただいた意見をもとにもう一度各回どういうことがポイン

トであったのかを抽出した形でまとめという形で報告させていただきたいと思います。

２．報告事項

委員長　それでは続いて報告事項に入らせていただきます。事務局の方から説明をお願いします。

事務局　資料２，３，４について説明

委員長　公募委員と男女の比率についてでしたが、これについて何か意見はありますか。

副委員長　資料２の令和４年３月の数字が女性４１％になっていますが、資料５の方は令和４年の実績値が４０．４％なので、四捨五入すると４０％になると思います。
また、令和４年と書いてありますが、令和４年度でなければ令和３年１２月段階の数字になると思います。
ということになると、令和５年度については四捨五入して４１％で、令和６年３月の４１％というのはこの資料５の表でいうと令和５年度の数字なんですね。

事務局　その通りです。

副委員長　そうすると資料２の令和５年３月というのは、資料５でいうと４０．４％ということですか。

事務局　そうですね、令和４年度の数値が令和５年３月の数字とイコールになると思うのですが、おそらく当時四捨五入の切り上げで計上したものがそのまま残っているものと思われます。

副委員長　一般的な統計では四捨五入だと思うので、切り上げるのはあまりなじまないですが、令和２年度は切り下げてますよね。
令和５年３月の数字は、目標は４割なので４０％にした方がいいのではないですか。

事務局　資料は平成２７年から載っておりまして、端数の考え方を今一度確認させてもらった後、記録を公表するときには整えさせていただきたいと思います。四捨五入で統一すべきと思いますので、資料５の数字が増えたという時期はそのままにしておいて、資料２の方を四捨五入で改めさせてもらおうと思います。（資料２についてＲ５．３の数値を修正し公表）

副委員長　ありがとうございます。令和２年度、令和３年３月の数字は切り下げになっているのでご検討ください。
また、令和の後に「度」って入れていただけると良いと思いました。
暦年なのか年度なのか分からないので、せっかく作っていただくのであればそこも合わせてもらえればと思います。

委員長　男女比率について何かある方はいらっしゃいますか。

A 委員　男女比３割以上という条例があったころに比べれば、４１％という数字だけ見れば女性比率が上がっているように見えますが、分野によっては達成率がまだまだなところもあります。そのため、４１％という数字だけを見るのもあまり良くないと感じました。

E 委員　改選のときなど、選任する時期から積極的に女性の方はいらっしゃいませんかなどの呼びかけがかなり多いと思いますので、審議会だけでなく団体の役員などでも女性の比率を上げようとしている傾向はあるかなっていうのは感じています。

Ｄ委員　市民として何か意見を言いたい方はいらっしゃらないですかなどの声をかけていただくこともあります。

委員長　男性も意見があればお願いします。

事務局　まちづくり協議会の会長はすべて男性で構成されています。それはなぜかという背景を考えていくと、何か見えてくるものがあるのかなと思います。

Ｃ委員　矢倉学区は今１２町内会がありますけれども、女性の方は町内会長で２名おられます。矢倉学区のまちづくり協議会では昨年女性が３名おりまして、副会長もやっていただけています。私たちとは考えていることが全然違うので、そんな意見があるのかという気付きになります。
また、資料５の白抜きの青い部分は見やすいですが、資料３の青色の部分が見にくいです。

副委員長　今回ではなく次期にでも御検討いただきたいのですが、最近いろんなところで名前を書くときに性別欄が変わってきています。男女比率の統計をとるときに、男性女性の区別をつけるのもどうだろうか、自認性に対して多様性として検討していかなければいけないないと思います。どういう統計の取り方、聞き取りや表現の仕方をしていくのか、ポイントは多様性だと思いますので、そういう統計をとる際には考えていければいいのかと思います。その際はこうした委員会で検討することもいいと思います。
統計で言うと、先ほど場所によって男女比率が変わるという話がありましたが、都道府県議会議員は大体１２．３％が女性なのですが、１人区になると数字ががくんと下がり４％にまで落ちます。いざ１人選ぶとなるとやはり男性が圧倒的に多いです。女性議員も増えてきてはいますが、１人区の女性議員はほとんどいません。ここから先の話になってきますが、こういった点もポイントになるのではないかと思います。

委員長　ここでは答えが出せないと思いますので、市で検討してもらう必要があると思います。言ってしまえば、男女を問わずに済むようになれば一番良いです。数で勝

負する話ではないですよね。委員会の男女比の話はここで出さずとも市の方で議論ができるはずです。
数字を出すだけでなく、そこは何をする委員会なのか、そこに来る委員には何を期待されるのか、そのような話を明確にしてメッセージとして出すことが男女の話のところだけでなく大切ですよね。
手続き状況で、段階を踏んで変えられているところはとても良いと思いますが、進めていくほどに参加率が悪くなるというのは、みんなが関わらないような話にシフトしているからだと考えられます。
市民がもっと会議に参加できる手法を求められるため、具体的に何か工夫を凝らす必要があるというのが一点です。
もう一点が、その政策が関わる範囲の話との掛け算をしておかないといけないということです。つまりある学区にものすごく密接に関わる話あるいはある子供たちの問題で密接に関わる方がいる場合に、その人たちに声をかける、その方たちとワークショップするなど、そしてこういった関わりのある人たちには少なくともこんな形で聞こうなどのストーリーがここに入っていく必要があるのではないかと思って、こんな表を見せられるとそう思いました。
本当は協議会という地域の話だけをすると地域じゃない人はどうかと思うかもしれないですけど、地域に関わる政策や問題は協議会のほうで相談をするとかいう筋書きがあってもいいと思います。そういう方向性を検討していくのが手続き上での問題だと思いました
他には御意見ございませんでしょうか。それでは続いての報告事項に入りたいと思います。事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局　資料５，６，７について説明

Ａ委員　資料５の「市民の指標」の①と②は市民の方に市の方で行っているアンケートですか。

事務局　はい、毎年行っている市民意識調査という市民に向けた３，０００人の無作為抽出のアンケートです。

Ａ委員　「市民主役のまちづくりが進んでいると思うか」という風に聞かれたのですか。

事務局　そうですね。

Ａ委員　「市民主役のまちづくり」の文言が抽象的でいろいろな受け取り方がある中で、聞いた答えが資料５ということですよね。ここにある目標値はどのように決められるのですか。

事務局　行政的な内部の話で言いますと、議会でも目標値をどのように考えて設定したかということを問われます。
行政の悪いところなのですが、右肩上がりの数字を過去の実績から設定します。
例えば先ほど申し上げました市民主体のまちづくりが進んでいると思う市民の割

合というのが無作為抽出の市民意識調査という部門ですから、これを目標値にしたところですっと上がるものではないとは分かっています。こういう上位計画によるベンチマークで使われているという行政ならではの理屈があってどうしても出てしまうものです。

Ａ委員　わかりました。正直そこはもう大丈夫かなと思います。
同じく資料５の②なのですが、こちらの地域の組織やグループへの加入の割合というのは無作為抽出を受けた市民の方が「地域の組織だ、グループだ。」と思って回答した答えが出てきたという風に考えてよろしいですかね。

事務局　はい、そうです。

委員長　どんな調査をするかで中身も変わってきますよね。
だから確かに一旦こういう文言で聞き始めたら経年変化を見るために同じ文言で聞かなければならないと思うのですが、確かに「市民主役のまちづくり」と聞かれてイエスという人がどんな人なのだろうとは思います。
具体的な聞き方で新たに検証し、イエスという答えの人がいるか確認すべきだと思います。
「地域の組織やグループに加入している市民の割合」という聞き方で、「地域」が先にあるんですけどつまり地域組織に関わっている人の数字を拾う文言ということですか。それとも何か市民活動とかサークルとかそういうものを全部拾う文言ですか。

事務局　市民意識調査の項目でいきますと地域組織もグループもひっくるめてという聞き方になっていたと思います。

委員長　そのグループというのは別に地域に関わらずに何でも良いのでしょうか。

事務局　キラリエサポーターや市民活動団体でもなんでも良いのかなとは思うのですが、そこまでは具体的に明記はしていないので、どう受け止められて答えられるかというところです。

委員長　その辺りのデータなどはどう使うのですか？

事務局　例えば町内会の加入率というものを別で統計取っていますが、少しずつ確かに下がってきています。草津市は８３．１％というのが１年前の数字なのですが、それで言うと、なぜ資料５の数値と乖離しているのだろうと少し疑問に思っていますので、そこはこれから違う視点で分析していくべき項目なのだと思います。

委員長　各主体の資料で、なぜ④でまちづくり協議会が出てこないのですか。

事務局　私もここにきてからこの計画を何度か見ていますけれども、まちづくり協議会について情報がないなと思っておりました。おそらく１次計画のときから１１年経

つのですが、市の政策的に言うと町内会等が高齢化でしんどくなってきたときに学区単位で地域を作っていくということをビジョンに掲げていたと思います。そこに向けて政策的にまちづくり協議会の設立というのを促してきたところで、その目標は一定達成できたかなというところもあって、そういう意味で２次計画では指標に当てはめて落とし込めていなかったのかなと考えています。

委員長　当然まちづくり協議会は自立をしているはずだから取り上げて指導したり押し付ける話じゃないとは思いますが、草津市が協働のまちづくりの中でまちづくり協議会にこういうことを果たしてほしいというような話があるだろうというのが一つです。
もう一つは、まちづくり協議会自身の中で目標を定めていることを促しているだろうと思って、そもそもそれの自己達成率という話もあるだろうと思いますし、それらの話を追いかけることでまちづくり協議会との密接な関係ができているという話もあるでしょうが、なぜここにそれがないのかは素朴な疑問としてありますね。
まちづくり協議会が市役所からそんなチェックされたくないというのならそれはそれでいいと思う。
もう一つが「協働における事業展開を行うべきと考えている職員の割合」という話で、どういう質問をしているか難しいところではありますが、８１％から８０％になって増えないという話が出ていました。しかしながら、８割を超えたらすごいですよ。８割もいるのになぜできていないのかという方が大事な問題である気がします。
職員の８割がすべきだと考えているのだったら、もっと積極的にいろいろと動くはずなのに、一方でさっき出ていた「苦手意識」や縦割りとかの話が出てきています。
そこの評価をせずにこれを出してもあまり説得力がないですよね。
だからそこはどうなのでしょうか。

事務局　ここについては表し方に難しさがあります。職員の中での協働の意識というのは30代40代に年齢が高まるにつれて意識が高まっています。
経験年数が低い職員のほうが協働という言葉を聞いたことはあるけれども、どういう場面で協働をしていいのかがわからないというのが現状です。
自分も若い頃の経験と置き換えて考えると、行政職の仕事を覚えるのに一生懸命で、余裕をもって対応ができないというのが背景としてあるのではないかなと思います。
そういうことを実数として表すための職員意識調査の項目に出るかというと、なかなかそれを捉えるための制度設計をすることができていないという難しさはあるなと考えています。

委員長　職員意識調査は協働の意識があるかどうかではなく、どんな仕事をしているか、市民とどんなつながりを持っているか、新たな仕事を行う上で市民と関わりがあるかのレベルで問わないと、この８割という数字は何も持たないようになってしまうと感じています。市民も職員も「協働」という言葉の意味を分からずに協働

のまちづくりをしてくださいと言っているのが一番大きな問題だと思います。
これはこれから先の話かもしれませんが、８割に下がったと思うのではなく、８割も思ったということになると思います。市民にしたら８割はすごいなという数字だと思います。９割は無理な数字ですよ。
市職員だけが高度な意識を持っているという期待はむしろありえなくて、8割はすごいなと思うけれど実態は何かわからないのだと思います。

Ｂ委員　なぜまちづくり協議会がないのかということに関連して、まちづくり協議会の会長として言いたいことがあります。この資料５を見る限り、一番それを表しているのではないかと思われるのは一番左上の「市民主役のまちづくり」かなと単純に思うのですが、そうするとこれが２０％程度ということはかなり低いと思います。一つの見方ですが直感的にそう思います。
それと一番左下の今言われた行政の指標（資料５行政の指標②）で、「協働における事業展開を行うべきと考えている職員の割合」のところで「行うべきと考える」ということは、今できてないけどやらなければならないと思っている人という見方もできます。どういう風に設問をとらえて答えられているかにもよりますが。

Ｇ委員　ものすごく素朴な疑問なのですが、資料５の②地域人材育成講座受講者数のところの動画再生数と人数は同義なのかというのがきになりました。

事務局　この受講者数の人数のカウントですが、確かに動画は本当に１再生を 1 人が受講したと捉えるかどうかという視点はあるのですけども、元々この受講者数も当然延べの中でも 1 人だけが何度も受けているということもきっとあるでしょうし、そこはこちらも実際にどういう方々が受講して何人が重複されたのかということは把握できていません。その中で、限られた人だけではなくて、多くの人にこの講座の内容を聞いてほしいという趣旨のもとホームページであったり、そういったインターネットの中で動画配信を一定期間アーカイブで残させていただいております。
もちろん中には実際に現地で話を聞かれた方がもう 1 回見たいということで見た場合もきっとあるでしょうし、全くまっさらな方もいらっしゃるとは思いますけども、そこについては一定の方がその内容を一通り聞いていただいたという主旨のもとで 1 再生数を 1 人というふうにカウントさせていただいたというところです。

Ｆ委員　資料５の各主体の指標③伴走支援する団体数のところで、目標値を上回っているのがすごいと思いました。
コミュニティ事業団さんとは大学の方で親しくさせてもらっているんですけれども、ある学区の御相談を事業団さんが受けて大学のほうに相談いただいてやり取りしたあと、その学区にお返ししたという非常に良い関係が構築できている。
ですので、この結果に繋がっていますし事業団さんも積極的にされているなと思うのは、資料６の評価資料を拝見いたしましても素晴らしいなと思います。

委員長　一つはまちづくり協議会をどういった形で拾うかということ、もう一つはコミュ

ニティ事業団と社協、キラリエの連携や、その連携によってどういうことが達成できたかについての話もできれば良いかなということをお伝えしておきます。
もう一点、まち協のヒアリングと市民団体のヒアリングをしてまち協のヒアリングは報告してもらっているのですが、市民団体のヒアリングについては次回報告すると言ったままになっていると思います。それを今ここで資料を出して報告するのは難しいと思いますが、それ自身が既にこの指標のバックデータになっているということですよね。
まち協をヒアリングしましたとか、市民団体をヒアリングしましたという話が、資料６，７に数字で表れない細かいデータベースになっているということは、バックデータの整理もこれにくっつくのではないかと思うのですが、その辺りどう整理される予定でしょうか。

事務局　今回参考資料３で一旦市民活動調査という形でコミュニティ事業団さんが市民活動団体向けに行っていただいたアンケートの生データという形だけにはなるのですけども、純粋にアンケートの集計結果のみ今回つけさせていただいています。
これについてはまだどういったところが課題であったのかという内容の分析がまだできておりませんので、今回丁寧にこの委員会でご報告することができなかったのでそこはお詫び申し上げますが、一旦アンケートの結果は出ているというところでまたこちらはお目通しいただきまして、このような結果になったということだけ今回参考資料でご報告させていただいております。

委員長　それは次期に向けての話としてお願いしておきます。そして次期に向けて２期の評価がくっついてくることと思いますが、そのときに市民活動団体とまちづくり協議会のヒアリングデータもきちんと整理された形で２期の報告は出てくるという理解でよろしいでしょうか。

事務局　そうですね基本的には２期計画を総括するにあたっては、目標数値をきちんと設定して次に繋げていかないといけないと思っています。

Ｂ委員　これは団体に対して送付されて、団体の代表の方が答えているのですか。

事務局　ここは市民活動団体に送付していて、まちづくり協議会のほうは個別にその前にヒアリングに行かせていただいていますので、別になっています。

Ｂ委員　おっしゃっていたまちづくり協議会のヒアリングの内容は反映されていないのですか。

事務局　この中には反映されておりません。

事務局　まちづくり協議会へのヒアリングの結果は前回のときに簡単にまとめたものを添付させてもらっていたので、今回は省略させていただいております。

委員長　他に質問がなければ次の協議に移りたいと思います。

３．協議事項

委員長　それでは協議事項に移らせていただきます。事務局の方から説明をお願いします。

事務局　資料８について説明

委員長　資料８はどのような位置づけでしょうか。第２次草津市協働のまちづくり推進計画をきちんとこの委員会が評価したということの報告書ですか。

事務局　最終的にはそうです。

委員長　だとすると、１枚だけなのでしょうか。普通計画があってその計画の総括評価というのはもっときちんとしたものがあって初めてその次の計画が進むというのが順当な流れだと思うのですが。草津市協働のまちづくり計画そのものだから、２年以上の長い歴史があって、その資料がこの分量ですか。

事務局　評価につきましては、前回の２月１９日の委員会で、特に市とか中間支援組織について評価を行いました。２次計画では、市、中間支援組織、市民、まちづくり協議会、基礎的コミュニティ、市民公益活動団体、教育機関という主体が条例で謳われており、この主体ごとに計画に落とし込まれているため、今回の委員会では、計画全体の評価というよりも、残った主体についての今現時点での評価を頂けたらと思っております。

委員長　では第２次計画の総括については別できちんとまとめられるということですか。まとめずには第３次計画は作れないと思います。

事務局　充分まとめられておらず申し訳ございません。そこについては次回の委員会で提示いたします。

委員長　私が勘違いしていたら申し訳ありませんが、先ほど委員資料 1 で話した話とこの資料８の関係はどうなっているのですか。

事務局　繰り返しになりますが、計画の１８ページ以降に各主体の記載がございます。実際に１４学区ございますまちづくり協議会も一括りで評価できるものではございません。まちづくり協議会では住民自治の組織ということで、各学区で計画を策定され、推進されていますので、そこについてはこの委員会で評価するべきではないのかなと思っております。また、残った部分の主体については例えば市民であれば、何をもって評価するか難しいところだと思います。視点も違えば活動されている場所や内容も市民さんによってさまざまです。そこについてはこの先時間をおいてもなかなか分析としては出てこないかと思います。また、市民公益活動団体についても、団体に寄って活動内容も違う中で、求められているものが何かを把握するために実施しておりますのが、参考資料３にございます、コミュニ

ティ事業団で実施された市民活動調査です。また、教育機関として計画に位置付けておりますのが、大学との連携ということで、立命館大学が中心となってくるわけですが、ここについても、できてきている部分とまだ見えていない部分があるというのが現状です。
この 1 枚の資料をもって第２次計画全体の総括をするものではなく、前回の評価委員会で触れなかった主体についてこの資料をもって御意見いただければと思っております。

事務局　どうしてもこの資料 1 も元々言葉足らずであったり説明不足というところで、もう少し内容を膨らました方がという話もありましたので、この資料 1 を作り変えて次期委員会に引き継ぐという形で、この資料 1 を膨らましたものをこの委員会で出てきた議論の総括というような資料にはさせていただきたいなと思ってはおります。

Ｂ委員　表の「実績」と「課題」の間に「計画」があればわかりやすいのではないかと思いました。
「市民」の実績として、３つの項目が記載されていますが、他の主体についてはどのような数値が好ましいでしょうか。

事務局　実際に市民の項目は特に目標として掲げたものとほぼ同じものなのでこちらは計画として令和５年度だったら何%でしたというのは書けるのですが、他の主体については計画の中にそういった目標値みたいなことも掲げておらず、そういう書き方が難しくて今回の実績のところも書き方も非常に難しかったというのが正直なところでした。

副委員長　議論になっていることはいくつかありますが、資料 1 のところについて実際に具体的にどんな議論があってそういうところですね。
私もこの文章の役割と今のお話について、前回までに議論した内容と組み合わせてこれがその総括になるというところことを十分理解しないで伺っていたなと思いました。
評価する全体像とそれをどう使うのかというところについて、冒頭に乾委員長がおっしゃられた通り、次期の計画を作るときに出発点としてどういうことが議論されたりしたのか、それは初めに資料１も関わっているのだと思いますが、資料１では具体的なところでもう少し言及がなかったというところで、前回議論しなかったこの部分について、私もきちんと見たところ行政が入ってないと思いまして、第２次計画の概要などをもう一度インターネットで見直したところ、「みんなでつくる協働のまち草津」という１５ページから始まるところについては、確かに主体が書いてあるのですけども、この委員会で成果と課題について議論するときには、もう少し書かれるべきことがあるかなと思いました。
また、そのフェーズで今お話いただいた、資料１と資料８がどのように違っていてどのように繋がっているのかというところが私も改めて見るとわからなかったのですが、文書としての意味とこれはどういうふう次の検討が始まるときに活かしていくのかという意味のあるところだと思いますので、資料１と資料８

がこの後の資料９とどのように繋がるのかということをもう 1 回確認させていただいてよろしいでしょうか。
計画の中身について資料２から資料６については今の計画に基づいて取りまとめていて、経年変化や現状がわかる資料となっていて、資料１は２年間のこういう成果がありましたというものであって、資料８をおそらくその資料９とセットになって、こういうことが課題になって資料９にあるようなことをこれから考えていくという案だと思います。次期委員さんで決めていかれるプレ情報みたいなものと思っています。

事務局　資料９の説明をまだしてない中ではありますけども、確かにおっしゃる通り資料１はたちまちこの２年間でどういった議論が出てきて、草津市のこの協働のまちづくりを進めていくに当たって現状把握ということも含めてどういった問題提起がなされて議論されてきたのかというのをまとめたものが資料 1 になる予定でした。
それをもっておっしゃっていただいたように資料２から資料７までは昨年度の振り返りという形で実績をまとめたものでございます。

事務局　資料８につきましては、前回資料４で市と中間支援組織について成果と課題をまとめさせていただいておりまして、前回時点で、前回と今回の２回に分けて評価を行いますというように書かせていただいておりました。資料４で前回お示ししていたさせていただいたのが７つの主体の内２つだったので、今回残りの５つの主体を資料 8 に落とし込ませていただいております。なお、前回から期間が過ぎているので、資料 1 で一旦復習をして、前回の資料４をまとめたものを資料９として頭出しをしたうえで新たな議論に入ろうという流れでございます。

副委員長　では、この資料８の体裁としては、第２次計画の成果と課題（後半）というわけですね。前半はもうやってしまったので書いていないということなのですね。

委員長　素朴な話として、第２次草津市協働のまちづくり推進計画が書かれていて、その流れの中で、こういう報告を出しますという話ならそれはそれでいいのですが、その間に本当はこの委員会でいろんな評価をしている、あるいは今指標が出てきてそんないろんな指標を見ながらした話はどこに反映されるのでしょうか。ここの委員会も含んだ形でこの第２次協働のまちづくり推進計画の評価やそこから生まれてきた課題というのは一体どういう形でまとめられるのですか。
それはそれで別にあるのであれば良いのです。ただ、これまでの議事録みんな読んでくださいであったり、いろんな調査結果の目標を見てくださいという話で済ますのだとすると、それは次の委員会への継承性がなくなる。
だからこそ、本来は第２次計画から第３次計画に行くときには、第二次計画の評価を整理整頓すると、この実績のも数値だけではなくてプラスアルファも書かれて、あるいは先ほど出てきた指標の話であったりとか調査結果であったりとかそういう話を参照する形でこういう方向じゃないですかというものが示されて、それに対して委員会でこういう議論があったという話は少なくとも今回まとまってないと次に繋がりません。どこかでまとまる話を作ってくれるのですかという話

を先ほどから聞いているのです。少なくともここで２年もかけて皆さんが議論したなかで非常に大事な話がありました。そういう話は全部これに絡む話で、自治体としての市民であったりまちづくりであったり、それに絡む話がありました。それをうまく整理整頓して次に繋がるような資料を作ってください。この資料８が形式的に必要であるといわれればそうなのですかと私は言います。しかしながらそれしかありませんと言われたらちょっと違うでしょうという話です。

事務局　今まで議論いただいた部分で、資料１でまとめもありまして、成果指標があって、残った部分の評価ということでしたけども、脈絡もないということで、改めてまとめをさせていただきたいと思います。

Ｂ委員　話をややこしくするつもりはありませんが、そもそも第二次計画は２０２０年施行でよろしかったでしょうか。

事務局　その通りです。

Ｂ委員　我々がこのメンバーでは議論させていただくようになったのが２年前です。確かそのときに元々第二次計画で設定された目標にまちづくり協議会や市民、基礎的コミュニティについてまとまって指標があって、その辺が目標設定されていたというところで、我々の２年間の中でこれだけではわからないという話になり、そこからここで課題って書いてあるところにまとめられるようなことをずっと議論して、いろいろブレーンストーミングとかワークショップをやって導き出した課題がまだ後半の方になってでてきたということであるから、そこをうまいことまとめないと、訳のわからないことになるという話じゃないかと思います。

委員長　形式的な報告を作るのは別に構いませんが、少なくとも第２次計画に携わってきた委員会の議論の結果を総合して協働のまちづくりになるのであれば、そこをきちんと次に伝えるような資料を作らないことには死んでも死にきれません。それはどこで確認できるのかなと思ったら、作るとは言わないものですから。

事務局　課長が作ると言えば作るのですが、いろんな事情がありまして、言い切れなくて申し訳なかったです。作らせていただきたいと思います。

委員長　ということで、他に何か言っておきたいことがあればお願いします。

副委員長　課題の中になかなか尖ったことが入れられないのかなと思いながら資料を見ていたのですが、やはり町内会さんがまちづくり協議会を脱退しているということが大きいことでもあるはずです。町内会加入率が下がっていて、コロナの影響による町内会未加入者の増加や退会者の増加と出ていますが、まちづくり協議会さんの枠組みの持続可能性みたいなところもやはり大丈夫だろうかなというのはあると思います。課題というよりはやはりその懸念ですね。またすごく印象的なのはボランティアセンターの登録が４００人減ったこと、統計的に見たらボランティア時間も減っている。私も自分の町内会で副会長をしているの

ですが、やはりコロナ前に戻すというのはもうある意味そのこと自体が幻影で、ソーシャルディスタンスがあったその３年間の後にどうやって維持したり、見えてきた課題に応えるかみたいなところがあって、災害は課題地域の課題を 10 年前倒しするっていう言い方があるのですが、コロナというのはやはり災害なのです。局地的でなくて全国規模で起こった災害で、それまで言われていたことが前倒しになって具体的に状況として現れてきているところであって、他方で参考資料３の自由意見欄を見ていますと、キラリエができて便利にはなったが、会員が減っていってやめていかなければならないという内容の意見が多く見受けられて、特に問題を感じているから書くのだと思います。その懸案は解決できないかもしれませんが、資料に落とし込んでほしいです。これから作るとおっしゃいましたけれども、行政さん正しいものを作ってみせるそういう意味じゃなくて、こういうことにこういう実績と課題を書いていきたいので意見があったらくださいというやり取りが、対面でなくても、委員会でなくてもメールベースでもあるといいなと思いました。やはり本当に大事なことをここで語られていたと思いますのでね。誰の意見がより大事になってくるかは行政さんの方で判断が難しいかもしれないので、それぞれここら辺が大事だなということを言う場面があってそれをベースに書いていただけるとなるほどというものができてくるのではないでしょうか。

委員長　まとめていただけるということですが、現状の課題の具体的部分を整理して次期のスタートラインに立てると思っていますので、期待しております。
それでは続いて第３次計画の構想なので、皆様の次期委員会へのメッセージを伺えればと思います。

事務局　資料９について説明

委員長　資料９は第３次計画の素案ですが、他にも加えたい内容があればお願いします。

Ａ委員　計画を作るという段階においては、現状はどうかということをきっちり把握することが大切ですが、それに関連して言いますと、参考資料３に市民活動調査というものがあるのですが、これを見たときに、市民活動団体がどういうことを望んでいるかがわかりにくかったです。というのも、１１番の問で「団体の目的としてどれを重視していますか」ということであるのですが、選択肢として「社会・地域への貢献や課題の解決」「団体内での親睦」「自身の学びや健康を高める」と３つあるのですが、ここからは何も読み取れず、クロス集計をしていただく必要があると思います。
また、これを見てもっと詳しく知りたいなと思ったところは、実は団体の収入の部分のところです。別の設問の選択肢に会計ができる人が欲しいというような選択肢あったりと、この資料の見せ方ではどんな人がどんな傾向にあるのかわからないので、もう少しわかりやすい見せ方にしてほしいです。

委員長　これはクロス集計等今後分析なさるのですよね。

事業団　生データを抽出しただけですので、これからクロス集計をしていくところです。
この調査に関しましては社会福祉協議会さんであるとか男女共同参画センターさんであるとか、いくつかの中間支援団体さんにも協力いただいてそれぞれの団体さんも調査をさせていただいたので、どの団体がこう言ったという所まではわかりませんけれども、社会福祉協議会さんでボランティア登録されている団体さんはこういった傾向が強かったとか、キラリエサポーターさんはこういった傾向があるとか、そういったレベルのクロス集計にはなります。
これからそれをさせていただいて、少し時間はかかりますが、また次計画作りの参考にしてもらえるよう進めたいと思っております。

委員長　調査をされたからには報告書を作られると思いますが、いつ頃完成する予定でしょうか。

事業団　第３次計画の策定に間に合うようにしたいと思っておりますので、できるだけ早いうちに完成させたいと思っております。

委員長　恐らくこれは参加の手法にも関わってくるのではないかと思いますが、それがまとまった段階で答えてくれたところを集めて、みんなできちんと話し合うというところまでいかないと調査をした意味がないと思います。それもひっくるめて、また次の協働の計画に反映されるのではないかと。もう少し流れを大事にしていただければと思います。

Ｂ委員　市民活動調査の対象は団体ですよね。ということは団体に所属していない人は対象じゃないということだと思いますので、そういう意味ではある意味偏りが見られると思うのですが、一方地域まちづくり協議会の会員というのは別に市民活動調査に属してない人がかなり大多数ということだと思いますので、そういう意味ではそのあたりのバランスをとるのが大変だなと思いました。

事務局　課長として何でも「やります、やります」と言って最後にできませんでしたというのは非常に避けたいなと思っております。
市民意識調査は無作為抽出でやっていますし、団体との繋がりがあるので、コミュニティ事業団を通してできます。そしてまちづくり協議会ですと、当課が直接ヒアリングをさせてもらっているところでございます。
それぞれの分野から情報を拾って最終的にどのような課題があってどういう取り組みをされているのかというのを、この２年間の委員会での議論を踏まえて、まとめさせていただきたいと思っています。

Ｂ委員　市民活動調査の対象となっている団体の人たちというのはかなり意識が高く、市民活動に積極的な人が多いと思います。一方でそうでなくて、住民だけどそこまで負担になるようなことは課されていないという人もいると思うので、そのあたりを整理する必要があるのではないかなと思います。

委員長　調査報告の中にある種の限界があるという状況を踏まえておくのが 1 点と、もう

１点が３，０００人の無作為調査の精度を上げればずいぶん今の話に答えられるのだろうと思いました。もう１点はまちづくり協議会さんに負担になるだけならむしろ学区で自分たちで調査をする、それを市がサポートするという仕組みを作っていけば良いと思いました。全部市の負担にしているからむずかしいのだけれども、ただ学区調査することに関してノウハウも何もないし、うちのまちづくり協議会は自分たちの学区の住民の状態を知りたいというところに手を上げてもらって、そこをコミュニティ事業だとか、そういうところをサポートして調査を行うとすれば、学区の方の住民の状況がわかります。そういうやり方を持った方が良いという気がします。これは提案です。

事務局　補足ですが、まちづくり協議会は先ほど申しました通り学区でプランを作成されます。例えば笠縫学区ですと、計画に反映させるために学区内のニーズ調査をされていました。

Ｄ委員　第２次計画の総括における課題の中で「各分野において、どのように協働のまちづくりを展開していくか、具体的なイメーが共有できていない。」とありますが、市としての具体的なイメージはできている上で各分野がイメージできていないということでしょうか？

事務局　大きく分類分けすると、地縁型の基礎的コミュニティあるいはまちづくり協議会と、テーマ型の活動団体があります。地縁型の方についてはこの委員会で報告をさせていただいて、大変な状況であると御意見をいただいたと思います。高齢化等、なかなか難しい話題が出てきています。まちづくり協議会でも方向転換をしていかなければならないということについては市としてもまちづくり協議会と協議させていただいています。ただ、前回の委員会でも老上まちづくりセンターがハロウィンパーティーで市民活動団体の力を使うという好事例が出てきたというお話はさせていただいており、そういうものを１４学区で少しずつを広げていくというのが一つの方向性かなと思っております。また、市民活動団体においても、キラリエで自分たちの仲間内だけで活動している団体だけではなくて、市民意識調査の中から拾えるのであれば、地域に貢献していきたいという団体さんについてはどんどんマッチングしていくというのが、これからの協働のまちづくりなのかなと、ぼんやりながら思っているところでございます。

委員長　こんなふうになったらいいなという市のメッセージやビジョンというのは絶対に必要だと思います。それで言うと第２次計画の総括のあたりというのはもう少しわかりやすく整理整頓しておくことはすごく大事です。具体的な話も交え、少なくとも市が思っている協働というのはこういうものであると示すべきです。また第３次計画の構想の中には項目としても行政の話が絶対に入るはずです。

Ｆ委員　第３次計画の方向性ですけれども委員長のおっしゃる通り市内の活動事例であったり全国の先進事例を参考にするのは非常に画期的な試みだなと思っております。先ほどの委員長の話にも重なるのですが、資料８の実績と課題があって資料９の第３次の構想があると思いますが、より細かな話で言えば第２次で浮き彫りにな

った課題を第３次に反映されていることについて触れた方が良いのかなと思いました。これまでの話し合いの中で、特にワークショップの中でも出たと思いますが、やっぱり人材育成ですとか、役員の不足、後継者不足等の御意見が出たかなというところですので、そのあたりを御提示されて、この委員会で議論していくというのが望ましいと思います。

委員長　その他ございませんでしょうか。

４．その他

委員長　では最後にその他の御説明を事務局からお願いいたします。

事務局　資料１０について説明

委員長　今日はここで委員として最後の方が４名いらっしゃいます。まずその方に最後のメッセージを発表いただいたうえで、他の方も一言ずついただいて、終わりにしたいと思います。

各委員より一言

委員長　皆さん方がここでしてくださった議論は、きちんと残った委員さんで引き継いでいこうと思います。それでは最後事務局にお返しします。

事務局　今日で最後になる皆さんにつきましては、いろんな貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。３次計画に繋げていきたいと思います。
本日の議論を受け次回委員会資料を作成いたしますので、是非ともまた御意見いただけたらと思います。それではどうもありがとうございました。